

研究ノート

## 保育所実習における事前指導に関する研究

—実習生の自己評価からの考察—

### A Study on prior guidance of the practical training in nursery school

From the self-evaluation of the trainee

百瀬ユカリ

Yukari MOMOSE

Key words : 保育所実習, 実習事前指導, 自己評価

#### はじめに

保育士課程に在学する学生にとって、初めての保育実習（保育所実習）は、どのような印象を持つのであろうか。それは、個々の学生のそれまでの経験や保育に対する熱意、実習に取り組む態度などによってさまざまであろうが、事前指導の内容によって左右される面も大きいと思われる。

そこで本研究は、初めての保育所実習を終えた学生の実習後の振り返りアンケート及び面接による聞き取り調査から、実習で印象に残ったことを中心に、学びと反省点を分析し、実習の事前指導における内容や方法改善の一助にすることを目的とする。

#### 1. 方法

##### (1) 対象

平成28年度大東文化大学文学部 保育士課程在学学生2年のうち、初めての保育所実習終了後の事後指導授業参加学生15名

##### (2) 時期

2016年2月下旬（前期保育所実習終了直後）

##### (3) 方法及び調査内容

「実習の概要」「保育所実習を終えての振り返り（よかったこと、困ったことなど）」及び「今後の実習に向けてやっておきたいことは何か」についての自由記述調

査及び面接による聞き取り調査（聞き取り時間は、一人10分程度である）

#### 2. 結果と考察

対象学生への解答用紙を配布、その場で記入し回収した（回収率は100%）。また、聞き取り調査についても、同日実施した（15名実施）。

自由記述の内容は、1つの設問に対して150字前後の回答記述があり、多項目に渡っていた。そのため、回答内容を①子どもに関すること、②保育者に関すること、③自分自身に関すること、④その他に分類していき、考察を加えることとした。

##### (1) 保育所実習の概要

全員が板橋区立保育園での実習であった。

0歳児から5歳児までの各クラスと縦割り（土曜日）に1～2日ずつ実習した学生がほとんどを占める。その他の実習配属クラスとしては、1歳児クラス5日間、4歳児クラス4日間、土曜保育2日間の学生1名と、2歳児3日間、3歳児6日間、土曜保育2日間の学生1名、0歳児、1歳児、4歳児、5歳児、土曜保育と実習した学生が1名いた。いずれの学生も早番、遅番も経験した。

##### (2) 実習中の「よかったこと」・「嬉しかったこと」について

###### ①子どもに関すること

15名全員が、子どもたちから「嬉しかった」という経

験について記述していた。その主なものを以下に示す(※数字は、同様の内容を記述した学生数である)。

- ・初日に子どもから「〇〇先生～」と呼ばれたこと。(6)
- ・子どもたちが積極的にきてくれて、楽しそうにしてくれた(遊びに誘ってくれた)。(5)
- ・笑顔で自分を見つけて「〇〇先生」と呼んでくれた。(4)
- ・子どもたちが自分の名前を覚えてくれた。(3)
- ・子どもたちがおままごとで自分をもてなしてくれた。
- ・給食の時に、ブロッコリー嫌いな子どもが、一緒に給食を食べている時に頑張ってくれた。
- ・子どもが作った折り紙をプレゼントしてくれた。
- ・自分ができなかったコマ回しが出来た時に、子どもたちが自分のことのように喜んでくれた。
- ・紙芝居を静かに聞いてくれた。
- ・絵本を読んだ時に、「もういっぱい！」と何度も読んでほしいと言ってくれたこと。
- ・ごはんを美味しく食べると、子どもたちが真似して食べてくれた。
- ・部分実習で、飽きてしまう子どもがいた中で、一人が「先生が頑張ってるんだから、しっかりやろう！」と言ってくれた。

面接での聞き取りの様子でも、初めての实習で、初日に「〇〇先生！」と子どもたちから呼ばれた時の喜びと、感動とともに、先生としての実感を味わえたことは感動でもあり、実習の始まりも実感したようであった。改めて、先生としての責任も感じつつ、子どもたちとの様々な嬉しい場面に遭遇したことがわかる。

## ②保育者に関すること

ほぼ全員が、何よりも保育者からの助言が嬉しかったと回答している。

- その主なものは、
- ・とても緊張していたが、先生方が親切にいろいろなことを教えてくれた。(3)
  - ・質問をしたことに丁寧に答えてもらい、その後の実習でアドバイスされた内容が生かされた。
  - ・日々のアドバイスがとても嬉しく、安心して実習を行うことができた。
  - ・できるだけ子どもとかかわるようにと職員の仕事はあまりなくていいと言われたことで、存分に子どもたちとかかわれた。
  - ・問題とされていた子どもとかかわりについて、保育者に褒められた。
  - ・笑顔を先生に褒められた。

- ・どのように子どもたちとかかわったらよいか試行錯誤しながら行動に移していたことを褒められた。
- ・自己紹介絵本を褒められた。
- ・絵本の読み方が上手と褒められた。
- ・初めての实習にもかかわらず、部分実習のような活動をさせてもらった。
- ・「紙芝居読む？」と聞かれ、用意していた紙芝居を読んだり、自己紹介絵本を見せたりできた。

不安でいっぱいの実習初日について、聞き取りのなかでは、子どもとの関係よりも、内心は保育者との関係が心配だったことを吐露する学生が多かった。こうした不安を、実習園での反省会を待たずして保育者が適宜アドバイスをしてくれたことが安心材料となり、実習そのものへの不安を取り除いてくれたようだ。想像以上に保育者からの指導が親切に感じたようである。

また、事前指導の授業で扱った「自己紹介絵本」をはじめ、実際に子どもの前で演じた活動について、評価してもらえたことが自信につながったようだ。

## ③自分自身に関すること

初めての实習ならではと思われる内容の他、実習から得た経験としての喜びが多く記述されていた。

その主なものは、

- ・保育の楽しさや、やりがいを経験できた。(3)
- ・自己紹介絵本、絵本、紙芝居を用意したが、全部子どもの前でできた。(2)
- ・とても緊張していたが、初日に初めて「先生」と呼ばれて身が引き締まり、頑張る気持ちになれた。
- ・寝坊することなく通勤できた。
- ・おむつ交換をさせていただいて自信になった。
- ・初日は出来なかった子どもたちのケンカの仲介ができた。
- ・部分実習のようなことをさせてもらった。
- ・2歳児クラスで、とても自分に懐いてくれた子どもができた。

などであった。

初めての实習は、何が起こるか予想がつかない中で、自身を振り返っての素直な喜びが多かったといえる。

## ④その他について

- ・0歳児から順に、子どもの発達を実際に見ることができた。(2)
- ・1歳児、2歳児…5歳児と順にクラスに入れたため、子どもの成長の仕方をよく理解できた。
- ・保護者に声をかけてもらった。

- ・子どもが、昨日できなかったことが今日できるようになる瞬間を二度も見ることができて、思わず涙が出てしまった（その子の本当の親・先生のように嬉しかった）。

などであった。

以上の内容は、実習生にとっての、よかったと思う（プラス的な）印象である。その内容の数（複数回答：60件）をみると、

- |            |             |
|------------|-------------|
| ①子どもに関すること | 27件 (45.0%) |
| ②保育者に関すること | 14件 (23.3%) |
| ③自分に関すること  | 12件 (20.0%) |
| ④その他       | 7件 (11.7%)  |

であった。

多くの学生にとって、初めて直接子どもとかかわったことによる喜びが、大きな印象を残したと考えられる。

また、保育者に関しては、事前指導で現場での厳しさを伝えていたため、親切に指導されたことが喜びにつながっているようだ。

初めての保育体験を通じて、机上では学べない子どもの姿や保育者の適切な助言・援助などに心を動かされたと思われる。

### (3) 実習中の「困ったこと」・「辛かったこと」はどのようなことだったか

#### ①子どもに関すること

主な内容は、以下のとおりである。

- ・子ども同士のケンカの際、どうしていいかわからなかった。(5)
- ・子ども同士のトラブルの対処が難しく、大変だった。(4)
- ・3歳児クラスに入った時に、私の所に甘えてくる子どもと、それができないでいる子どもがいて、どのように受け入れたらいいのか難しくて困った。  
(担任に相談するまでは、ただ乱暴な子どもかわがままな子どもだと思っていた) (子ども理解)
- ・絵本の読み聞かせは自分でなんとかできたつもりだったが、手あそびや絵本を読むタイミングが難しかった。  
(下読みの大切さ)
- ・自分と一緒に遊びたがっている子どもが二人でケンカしてしまった。
- ・食事の援助で、子どもがなかなか声かけに応じってくれなかった。
- ・食事の際に私が近くに座ると、話をして食べなくなってしまった。

- ・食事の援助でスプーンを出したら、「やだ！こっちこないで」と叫ばれた。
  - ・食事の介助は思うようにいかず、難しかった（実習生なりの接し方、子どもたちとの信頼関係の築き方を考えるようになった）。
  - ・ある子どもに近づいたら「いやだあ、こっちこないで」と叫ばれた。
  - ・声かけの仕方、タイミングが難しかった。
  - ・泣いている子どもへの声かけ。
  - ・話を聞かないでふざけてしまう子どもへ注意をしたが、全く聞いてもらえなかった。
  - ・子どもの年齢が上がるにつれて、どのように声かけをするべきか。
  - ・子どもにいけないことを注意したかったが、強く言うことができなくて、甘やかし過ぎたところがあった。
  - ・年齢が上がるにつれて、どのように援助したらいいのかわからなくなってしまった。
  - ・5歳児クラスから入って、年齢に合った援助が難しいと思った（やり過ぎるのは子どもの発達によくないので、援助をしない境目が判断できなくて大変だった）。
  - ・名前を聞いても返事がなく焦り、私が名前を述べても行ってもらえず困った（保育者が名前を呼ぶ時に、洋服の色と名前をメモして覚えた）。
  - ・2歳児クラスで、少しずついろいろなことができるようになってきているので、どこまで援助したらいいのか分からなかった。
  - ・1歳児クラスで、おやつや排泄の時に遊びをやめない子どもがいて、何度声かけをしても来る様子がなく、戸惑った。  
以上の内容と聞き取りの様子から、最も多かったのが、「子どものケンカの仲裁」と「トラブルの対処」に関してであった。その他としては、「年齢に合った援助の仕方」、「声かけの難しさ」、「食事中の対応」であった。
- #### ②保育者に関すること
- 保育者についての直接的な困りごとは、聞き取り調査でもほとんど無かった。記述されていた主な内容は、
- ・どのタイミングで担任保育者へ質問をしたらいいのか戸惑った（⇒子どもの午睡の時間にするのがよかった）。
  - ・子どもの年齢が下がるにつれ、保育者の数が多くなるので日誌にどのように記録をすればいいのかわからなくなった（リーダーの先生かサブの先生に確認するとよい）。
  - ・どこまで先生の手伝いをしていいのか分からなくて少

し困った（確認することができなかった）。  
 などであった。

③自分自身に関すること

実習の事前指導では、実習生としての心構えとして必ず「実習生としての自覚」「健康管理について」「日誌の記述についての大変さ」などを具体的に指導しているのだが、実際に振り返りを見ると以下のような内容があげられる。

- ・毎日、日誌を書くのが大変だった（行動を記録することの大切さを実感した、行動を文にすることで新たな発見があったので大切だと思ったなど）。(8)
  - ・のどが痛くなって、声が出しにくくなった。(2)
  - ・風邪をひいてしまった。
  - ・睡眠不足で大変だった。
  - ・部分実習で失敗した。
  - ・0歳、1歳児とのコミュニケーションのとり方。
- などであった。実習の事前指導で伝えたことでも、実際に実習が始まらな（特に実習日誌の大変さは）わからない。実感として、多くの実習生が大変だったという印象が残ったのではないだろうか。

④その他

特に辛かったということは無かったという学生もいたが、配属されたクラスの子どもの状況が反映されている。

- 主な内容は、
- ・耳の聞こえない子どもへのかかわり方がわからなかった。
  - ・発達遅れている子どもへの声かけやかかわり方がわからなかった。
  - ・ダウン症の子どもへの接し方がわからなくて困った。
  - ・発達障害の子どもへのかかわり方。
  - ・外国の子どもとの接し方。
  - ・2歳児、3歳児以外（入れなかったクラス）の一日の流れが知れなかった。
- などであった。

困った、辛かったといったマイナス的な印象については全部で50件（複数回答の合計）で、内訳は、

①子どもに関すること	26件 (52.0%)
②先生に関すること	5件 (10.0%)
③自分に関すること	11件 (22.0%)
④その他	8件 (16.0%)

であった。

主に子どもに関しての記述が約5割であるのは、よかったことや自身の評価・反省に多く述べられていたように、積極的に子どもと関わろうとしていく中で、出

会った場面での難しさからきた内容であったともいえる。予想した以上に現場での保育者の援助は、難しいものであることを認識したことによるものでもある。

中でも、毎日実習を終えてから日誌の記入に苦勞したという回答も多く、かぜをひいて辛かったといった体力や健康管理面への反省もあった。事前指導でふれていたことながら、経験を通じて改めて実感したようである。

(4) 実習生としての自分を振り返っての評価・反省

- ・風邪を引いてしまい、実習の後半は声が出なくなってしまった。ガラガラな声で子どもとかかわることになってしまい、絵本の読み聞かせも、声かけも聞き取りにくい状態だった。(2)
- ・実習に入ったクラス全員の子どもの名前をすぐに覚えるようにした。それによって、積極的に子どもたちと遊んだり、名前を呼びながら子どもたちと関わられた。反省点は、その場で積極的に先生方に質問できなかったこと。
- ・子どもとかかわりでは、思い通りにならなくても諦めずに先生方に聞きながらできた。
- ・子どもに積極的にかかわることができた。
- ・無意識に、ずっと笑顔でいたことを先生方に褒められた。笑顔で実習できてよかった。
- ・先生方から指摘されたことに対して、すぐに動くことができなかった。
- ・いろいろな子どもへ積極的に声をかけることができた。が、子どもの動きばかりを意識してしまい、保育者の動きをもっと見るように指導された。
- ・子どもと元気よく遊べてよかった。
- ・せっかく用意したにもかかわらず、自己紹介絵本を披露できなかった
- ・初日は、子どもとかかわることだけで精一杯だったが、少し気持ちに余裕が出来てくると、保育者の働きかけが見えてきて、疑問に思ったことをすぐに質問できるようになったことがよかった。
- ・子どもの前で話す機会が多くあったことで、もっと人前で話す、伝えるということに慣れていきたいと思った。
- ・積極的に子どもたちと関わられたと思う。しかし、甘やかしてばかりで、やってはいけないことへの対応ができなかった。
- ・子どもの命を預かるという意志をしっかり持ち、子どもへの援助についての奥深さを知ることができた。保育者としての使命感を感じながら、子どもたちと楽し

くやっていくことは難しかった。しかし、保育者の姿を見ながら、積極的に子どもとかかわることができた。

- ・体調を崩すことなく実習が終えられてよかった。日々笑顔を忘れずに、積極的に子どもに声かけをし、保育者には質問をして適切なアドバイスをもらえたので、充実した実習だった。
- ・自分がいることで、子どもたちの集中がそれてしまって、先生方に迷惑をかけてしまったことがあるのではないかと思う。どうしても自分の所に寄って来てくれる子どもとばかり関わってしまったことが反省である。
- ・自発的に動くように心掛けていたので、子どもとかかわり方などは学ぶことが多かった。声のトーンや大きさについて指摘されたが、実習中に直せなかった。
- ・園内でインフルエンザがとても流行っていたので、手洗いうがいを徹底した。できるだけ園で日誌を書くようにして、睡眠時間を多く確保するようにした。疑問に思ったことはメモをして、保育者の様子を見ながら質問をしていた。実習前半は何をしたらいいのかわからなかったのもっと積極的に保育者への質問ができたらよかった。
- ・積極的に子どもたちと関わることで、少しでも信頼関係を築くことができたと思う。4歳児クラスでの部分実習をさせていただき、練習の大切さをより実感した。ここでのポイントは、子どもと積極的に関わった学生が比較的多かったが、保育者の援助については見えていなかった、早めに質問できなかつたとの振り返りを持ち、反省点としてあげている学生が多いことである。

実習事前指導の授業で、子どもの名前をできるだけ早く覚えるように指導してきたことが、学生の努力に結びついていると考えられる。また、健康管理についても自覚していることがわかった。

(5) 全体を振り返っての感想、今回の実習経験をどのように活かしていきたいか

この問いに対しては、記述も聞き取りの方でも具体的な内容がいくつも述べられていた。その内容は以下のとおりである。

- ・0歳児から5歳児まで順番に実習できたことで、体も大きくなり、出来ることがどんどん増えていき、発達段階が体験しながら学ぶことができた。子どもからも保育者からも多くのことを学べた。
- ・先生方がとても親切に多くの指導をしてくださったので、自分の保育技術の引き出しが増えたように思う。急きょ紙芝居を読んだり、絵本を読み聞かせる機会を

もらい、少しそうした抵抗がなくなったと思う。先生方からの指導により、前向きになれたので、今後の準備に活かしたい。

- ・失敗することもあったが、次に活かせるように前向きにとらえられた。
- ・実習前は、日に日に実習が不安になり、行きたくなかったが、子どもたちの笑顔に癒され、思い切り遊び、楽しく過ごせた。先生方一人一人がとても親身に指導してくれたので、想像以上に充実した実習になった。
- ・先生方が、詳しく色々なことを教えてくれたので、それを記入した日誌を大切に、反省点を次の実習で活かしたいと思った。
- ・人見知りの子どもの「やだあ」と言われても、もっとかかわり方を考えるべきだった。次の実習では、発達段階とかかわり方を知り、言葉がけを考えてかかわれるようにした。
- ・手あそびや体操、子どもの興味関心のあるもの、流行しているものをもっと知っておく必要がある。
- ・年齢に合った援助があることを実感できたので、今後の学びに繋げて、次の実習に活かしたい。
- ・思っていたより保育者の仕事は、とても大変な仕事だと感じた。
- ・実習中に、0歳児から5歳児と年齢が上がるにつれて、出来ることが増えていくことを自分の目で見てわかった。授業ではピンとこなかったが、子どもの一年の成長の凄さを感じた。
- ・障害についてももっと勉強しておくべきだった
- ・もっと積極的に質問すべきだった
- ・短い実習期間で、こんなにも子どもの成長を感じられて不思議な気持ちだった。どのような意図を持って子どもとかかわるかということの大切さを学んだので、今後の実習に活かせるようにしたい。
- ・初めての实習では、学校で学べないことが多く、保育者の声かけや援助の仕方など沢山のことを学べた。子どもたちとかかわり、さまざまな場面での対応の仕方を学べた。絵本や紙芝居が上手く出来なかったのも、その際の助言を次回につなげたいと思う。
- ・様々な年齢の子どもの発達について実習を通して学ぶことができたと思う。今後は、もっと絵本や紙芝居などの保育技術に関して練習していきたいと思った。
- ・実習中に沢山の助言をいただいたので、次回の実習に活かしたい。
- ・保育の広げ方（電車の絵本⇒電車ごっこで移動⇒手あそび）を見て、多くのレパートリーを身につける必要

があると感じた。次回までに、手あそびをもっと知り、ペープサートを作るなどの準備をしたい。今回学んだ声かけや働きかけを、次の実習に役立てたい。

- ・年齢によって発達段階に大きく月齢差があるということを実感した。中でも、乳児クラスの保育者が、子どもの行動から、子どもの気持ちを読み取り、一人一人の特徴をつかみながら保育していくことが大切であることを学んだ。保育者の子どもへの援助方法を沢山学ぶことができ、とても充実した実習だった。また、実習中に絵本や紙芝居を読ませていただく機会が何回もあった。はじめは集中させながら読み聞かせは出来なかったが、やるたびに助言をいただき、後半は少しは改善できたかと思う。今後の実習に向けて、今回いただいた助言を活かして、多くの準備をしたい。
- ・自己紹介パネルは好評だった。けれども、部分実習は反省点ばかりだった。絵本の選び方や、声の大きさは褒めていただいたので、絵本を通しての活動の広げ方などを工夫したいと思った。

以上のような内容であったが、今後の実習に向けてやっておきたいことについては、「絵本や紙芝居の読み聞かせについての準備」が最も多く、次いで、「子どもの発達理解と適切な援助について」、「言葉かけ」、「手あそびのレパートリーを増やす」であった。したがって、実技関係の指導を充実・改善が必要であると思われる。

また、聞き取り調査ではどの学生も、部分実習の準備として「指導案の書き方」、「実習日誌の書き方の確認」を挙げていた。

## おわりに

今回の調査結果から、事前指導においてよりの確に指導することが必要な点は、

- ・日誌の記入、指導案作成
  - ・絵本、紙芝居等 子どもに見せる活動の準備
  - ・具体的な部分実習、責任実習の準備
  - ・子どもの発達理解
  - ・保育者とのかかわり（言葉遣い、援助）
  - ・障害のある子どもへの理解と援助
- であるといえる。

今回の実習で見つかった課題を、次の実習に活かせるよう、学生の意欲を大事にしながら、ここまでに明らかになった内容を事前実習指導の中でも扱えるようにしたい。現在は少人数での指導が可能のため、学生の要望を取り入れながら、今必要な準備に向けての指導を考えて、実践に取り入れられるよう今後も保育実習事前指導では

特に学生との連絡を密に進めていきたい。

## 参考文献

- 中山忠政、上田慎二「効果的な「保育実習指導」に関する研究―事前指導における部分保育案作成の試み―」プール学院大学研究紀要 第54号 275-284頁 2013年
- 榎本正明「保育実習に関する教育指導：保育実習事前指導」華頂社会福祉学 第2号 51-52頁 2004年
- 新川泰弘「保育所実習事前指導における学びの視点(1)：子育て支援に関する学習内容を中心に」日本保育学会大会発表論文集 第56回 854-855頁 2003年
- 相浦雅子他編著『STEPUP!ワークシートで学ぶ保育所実習 1・2・3』同文書院、2008年
- 大橋喜美子編著『はじめての保育・教育実習』朱鷺書房、2003年
- 大場幸夫他編『新・保育講座保育実習』ミネルヴァ書房、2002年
- 小田豊他編著『幼稚園・保育所実習』光生館、2002年
- 全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房、2007年
- 田中まさ子編『幼稚園教諭・保育士養成課程幼稚園・保育所実習ハンドブック』みらい、2003年
- 島山倫子編著『幼児教育法教育・保育・施設実習』三晃書房、2002年
- 森上史朗・大豆生田啓友編『幼稚園実習・保育所・施設実習』ミネルヴァ書房、2004年
- 百瀬ユカリ・山下佳香「幼稚園実習・保育所実習の事前事後指導に関する事例を通しての考察」秋草学園短期大学紀要 第28号 151-162頁 2011年